

# 「子ども発達支援に関するアンケート調査」の結果（概要）

## 1. 調査の概要

### （1）調査の目的

本市の子ども発達支援施策に関する将来的な方針を検討する上での基礎資料の収集を目的とする。

### （2）調査方法

郵送で配布し、郵送またはオンライン調査の併用により回収した。

### （3）調査期間

令和5年10月から12月

### （4）対象者

#### ①保護者アンケート

名古屋市内に居住する令和5年9月1日時点で障害児通所支援給付の認定を受けている子どもの保護者 8,360人

#### ②支援者・関係機関アンケート

ア 保健センター	16 箇所
イ 市立幼稚園	20 園
ウ 市立保育所	87 園
エ 子育て応援拠点・地域子育て支援拠点	62 拠点
オ 医療機関	27 医療機関

### （5）調査の委託

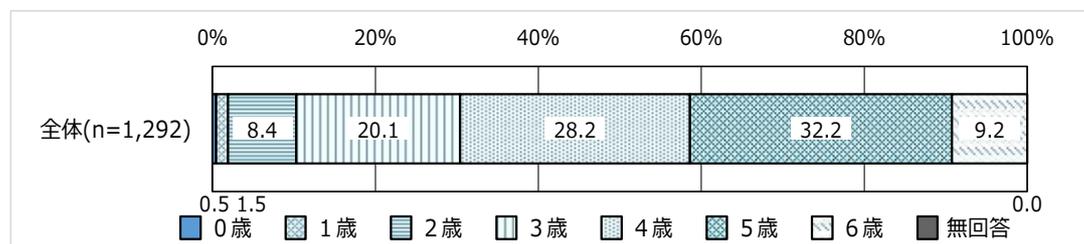
調査の実施・集計・分析は三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に委託

## 2. 主な基礎的データ

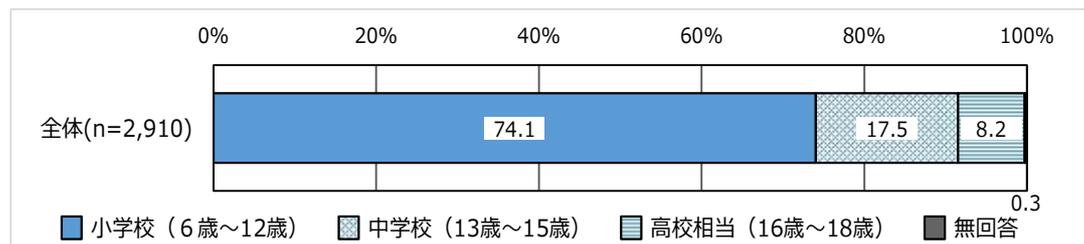
### （1）保護者アンケート

#### ①お子さんの年齢

##### ア 就学前児童

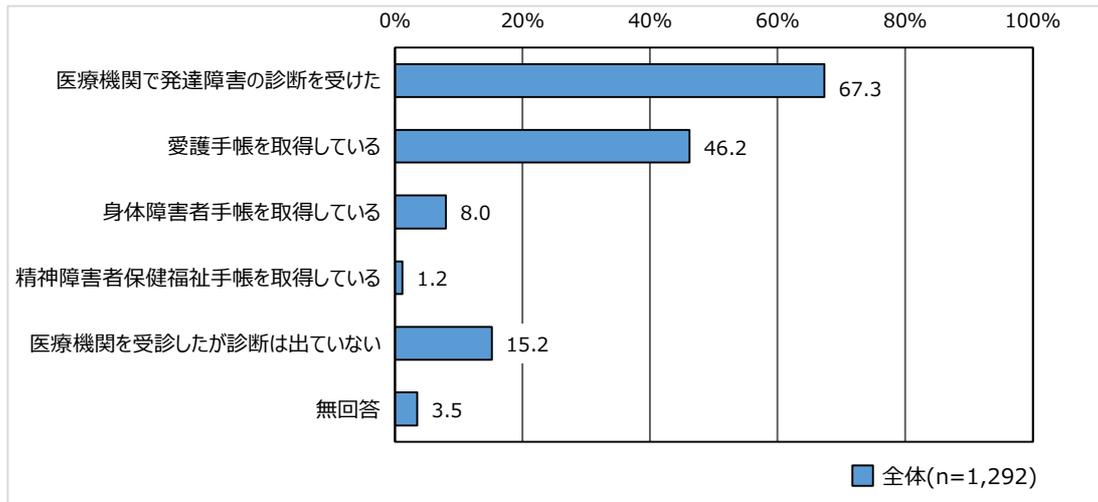


##### イ 就学児童等

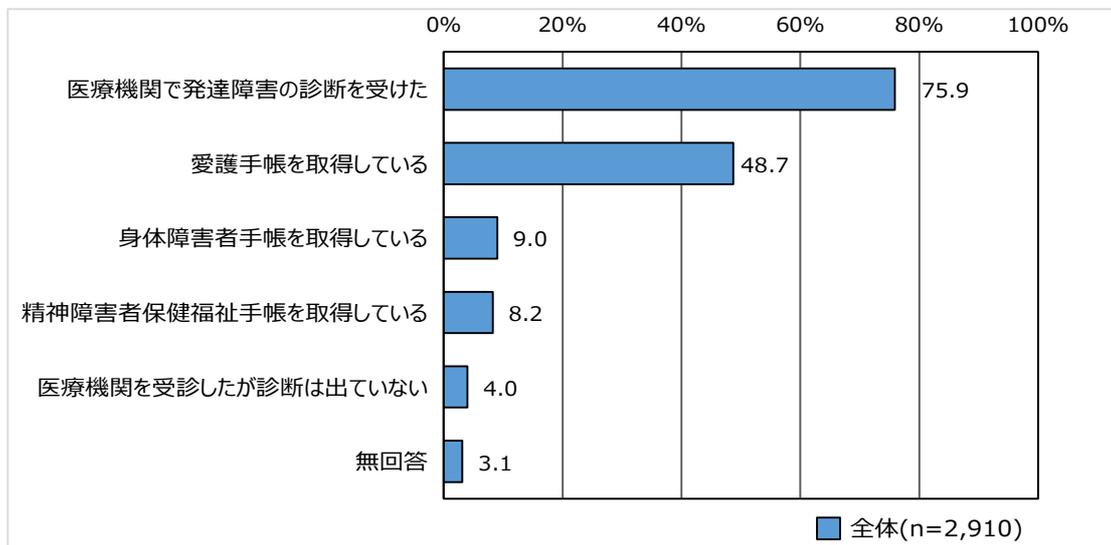


②発達に関する診断や障害に関する手帳の状況

ア 就学前児童

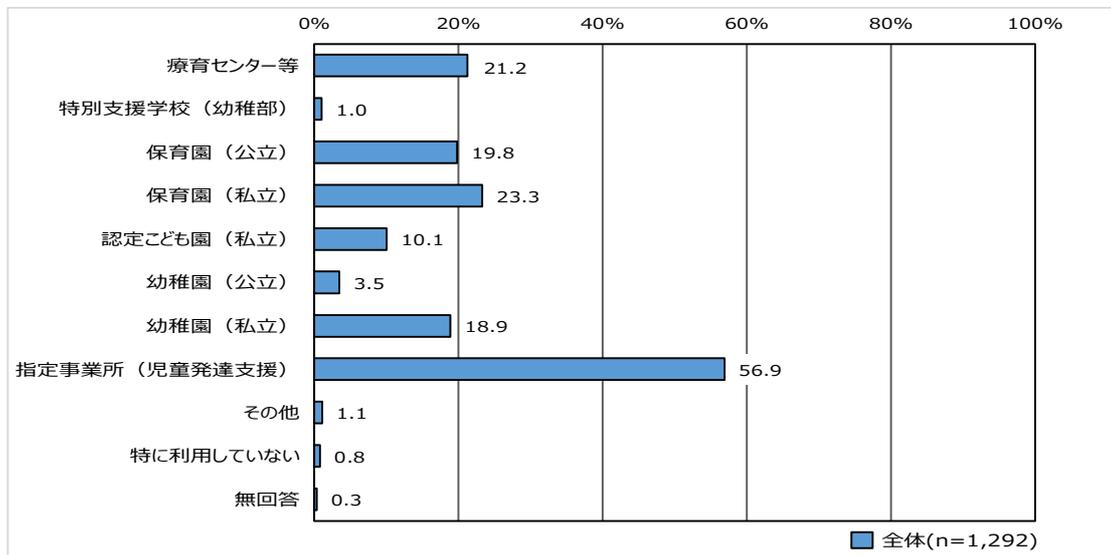


イ 就学児童等

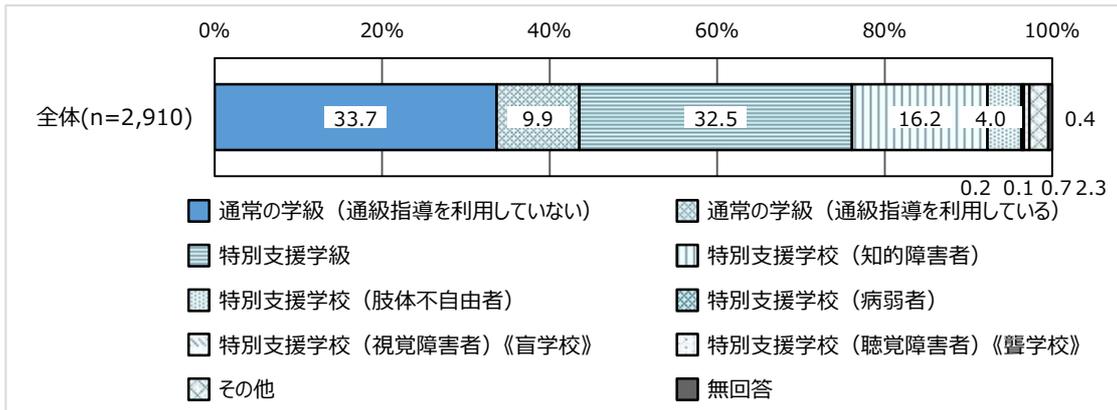


③普段利用している機関

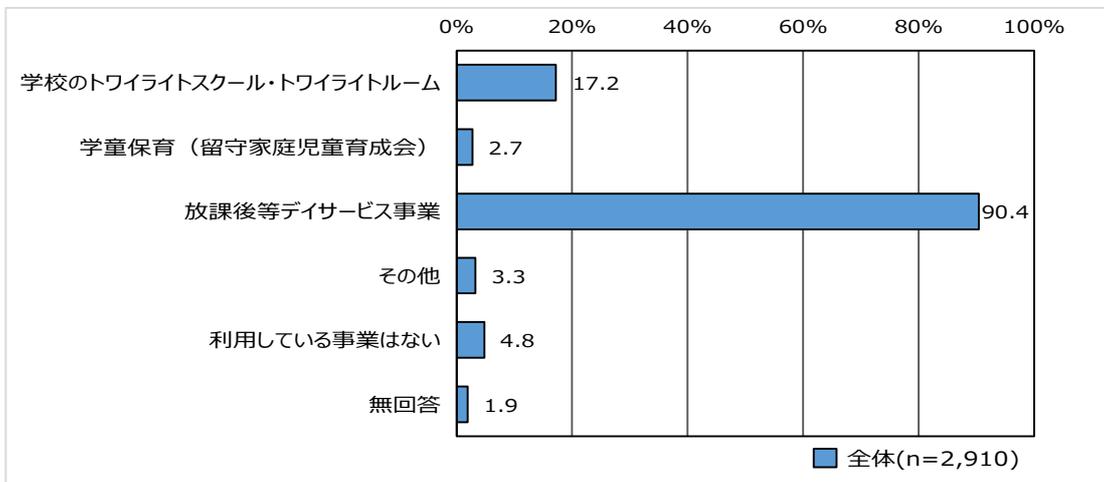
ア 平日通っている園等（就学前児童）



イ 通っている学校・学級の種類（就学児童等）



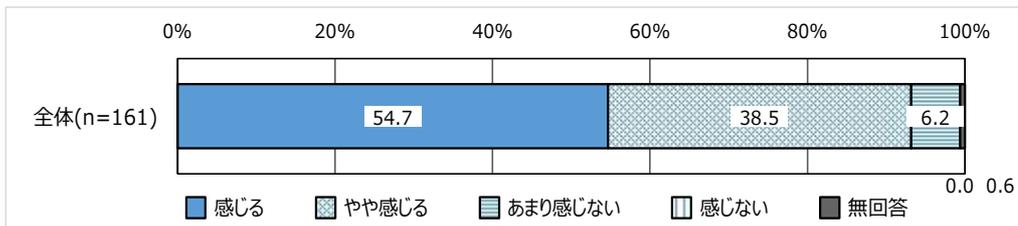
ウ 放課後等に利用している機関（就学児童等）



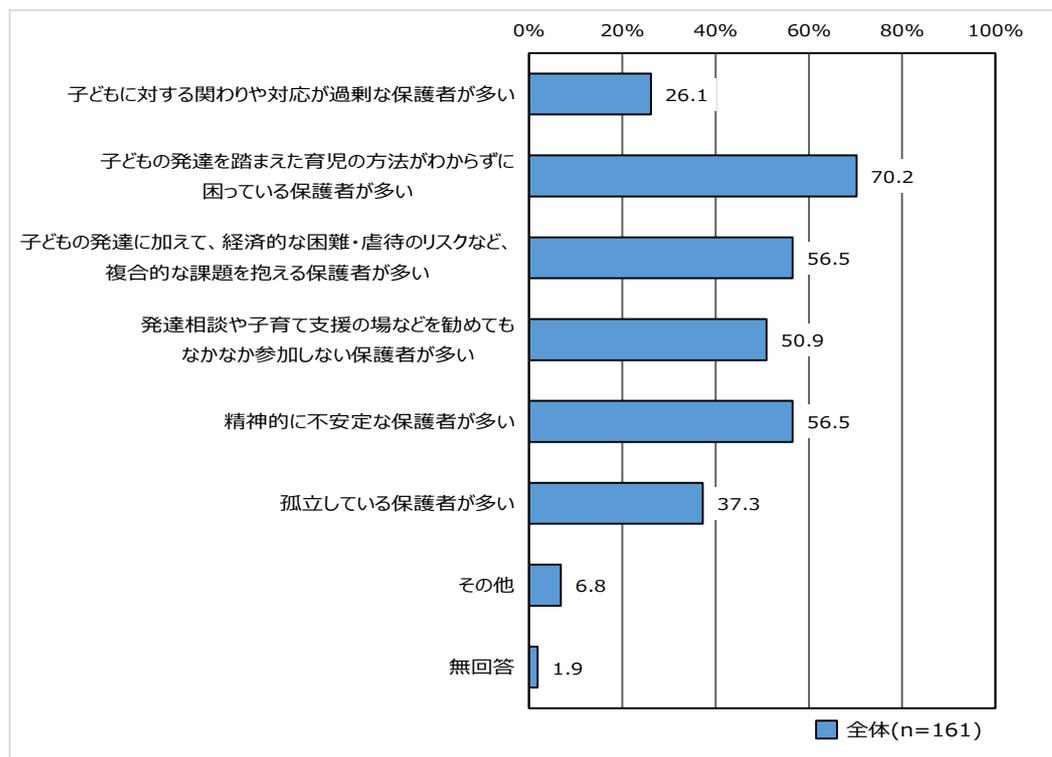
(2) 支援者・関係機関アンケート

①保健センター

ア 障害診断はないが発達支援が必要な子どもが増えていると感じるか

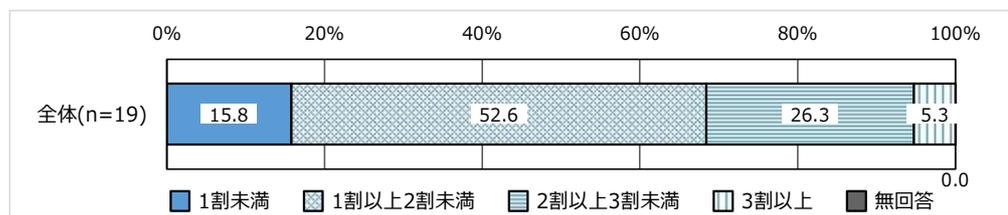


## イ 子どもの発達支援の中で保護者の気になること

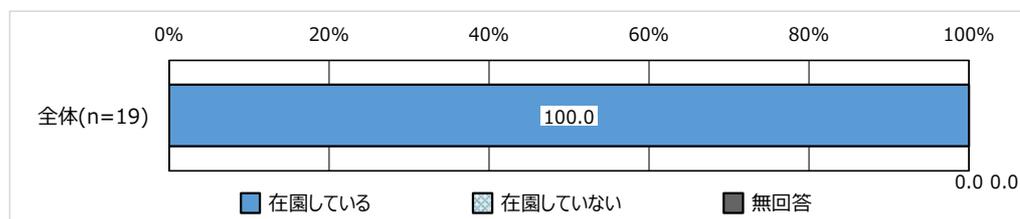


## ②市立幼稚園

### ア 発達支援が必要な子どもの割合



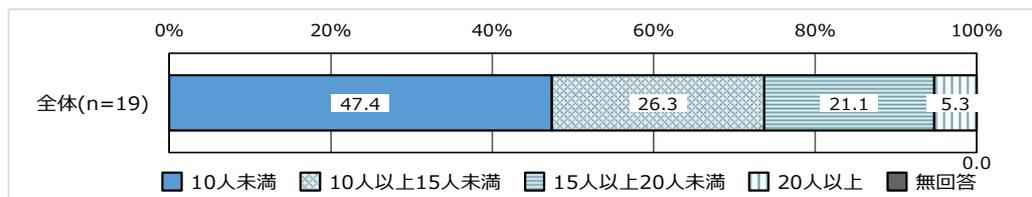
### イ 発達について「気になる子(※)」の在園状況



※主に下記のような特性が気になる子どもについて質問しています。

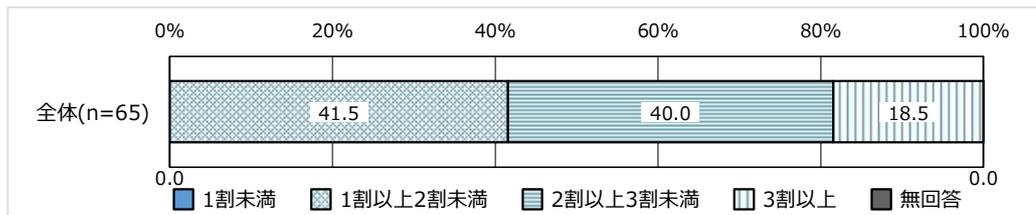
- 発達上の問題が気になる（発達の遅れ、言語、理解力など）
- コミュニケーションが気になる（やりとり、視線、集団参加など）
- 落ち着きが気になる（多動、落ち着きのなさ、集中力など）
- 情緒面が気になる（乱暴、こだわり、感情のコントロールなど）
- 運動面が気になる（ぎこちなさ、不器用など）

ウ 発達について「気になる子」の在園人数

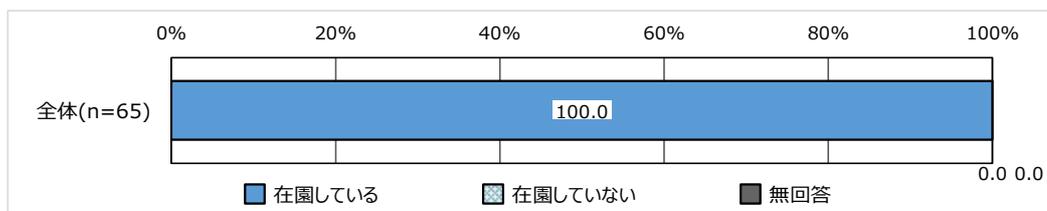


③市立保育所

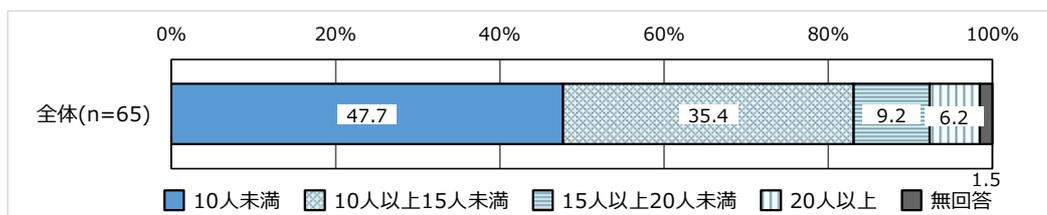
ア 発達支援が必要な子どもの割合（3～5歳児クラス）



イ 発達について「気になる子」の在園状況

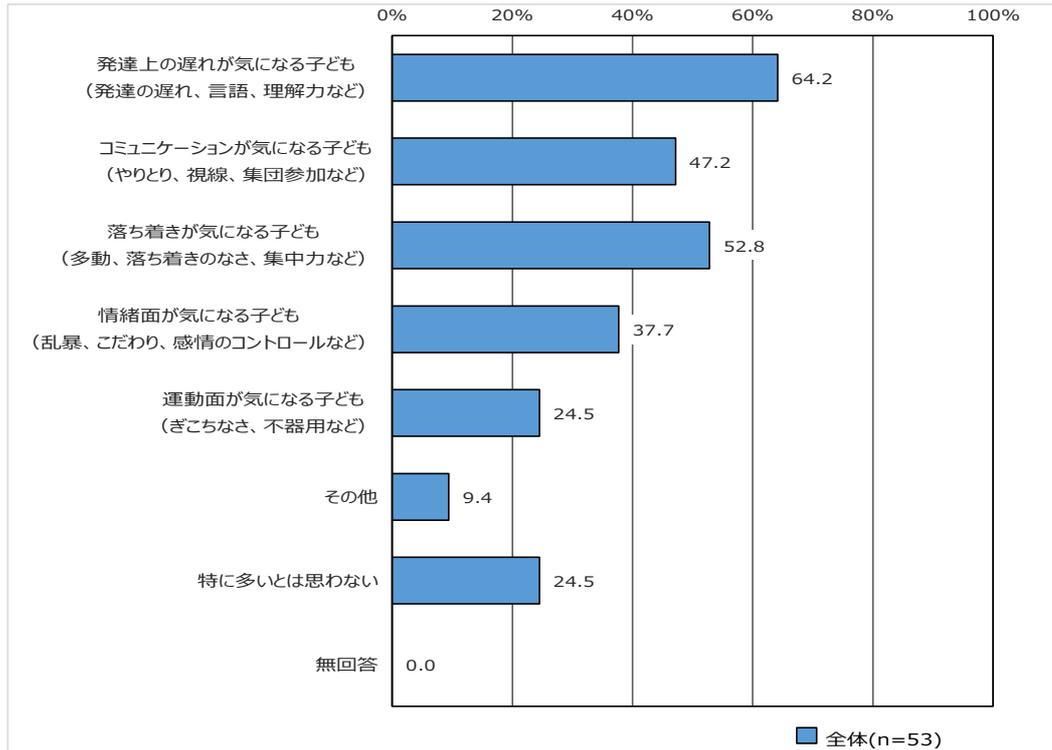


ウ 発達について「気になる子」の在園人数（3～5歳児クラス）

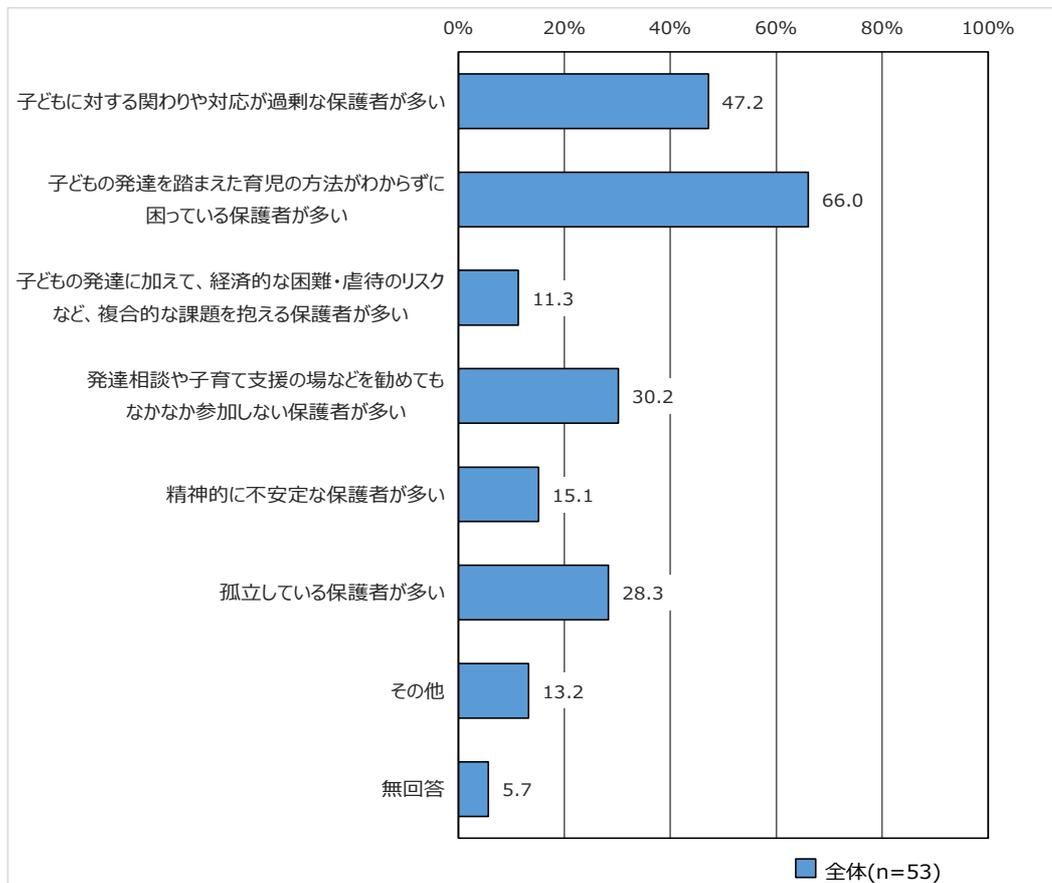


#### ④子育て応援拠点・地域子育て支援拠点

##### ア いわゆる「気になる子」が多いと感じますか



##### イ 拠点を訪れる保護者について気になること



⑤医療機関

ア 回答医療機関の受診者数（実人数）

	合計	軽度の発達の遅れ、育児不安	発達障害・精神障害児	知的障害児	身体障害児	重症心身障害児
就学前児童	1,363	707	499	107	38	12
小学生児童	1,593	376	1,001	169	39	8
中学生～18歳未満	953	144	677	113	10	9

3. 主な調査結果

(1) 平日に利用している機関などの支援に対する利用者満足度（就学前児童）

「とても満足」の割合

上段：実数 下段：%	合計	お子さんの発達を促すプログラムの内容	お子さんの状況を踏まえた個別の対応	お子さんの発達への理解を深める保護者への助言など	お子さんの発達への悩みなどへの相談支援	保護者の方の悩みなどへの援助	保護者同士のつながりへの援助	地理的条件 自宅からの距離等の	時間 1日あたりの利用できる	送迎サービス
全体	1197 100.0	440 36.8	503 42.0	401 33.5	388 32.4	193 16.1	451 37.7	470 39.3	248 20.7	
平日の 通い先	療育センター等	273 100.0	137 50.2	145 53.1	124 45.4	118 43.2	95 28.9	79 28.9	84 30.8	69 25.3
	特別支援学校（幼稚部）	13 100.0	9 69.2	10 76.9	8 61.5	5 38.5	3 23.1	3 23.1	5 38.5	4 30.8
	保育園（公立）	256 100.0	86 33.6	103 40.2	81 31.6	87 34.0	30 11.7	109 42.6	106 41.4	44 17.2
	保育園（私立）	301 100.0	98 32.6	119 39.5	91 30.2	93 30.9	34 11.3	113 37.5	135 44.9	37 12.3
	認定こども園（私立）	130 100.0	33 25.4	37 28.5	27 20.8	23 17.7	9 6.9	50 38.5	56 43.1	24 18.5
	幼稚園（公立）	45 100.0	17 37.8	19 42.2	14 31.1	10 22.2	5 11.1	16 35.6	16 35.6	9 20.0
	幼稚園（私立）	244 100.0	89 36.5	102 41.8	81 33.2	71 29.1	28 11.5	104 42.6	96 39.3	74 30.3
	指定事業所（児童発達支援）	735 100.0	416 56.6	436 59.3	323 43.9	296 40.3	89 12.1	274 37.3	333 45.3	326 44.4

- 特別支援学校（幼稚部）、療育センター等、指定事業所の発達支援のプログラム等について利用者の満足度はいずれも比較的高い。

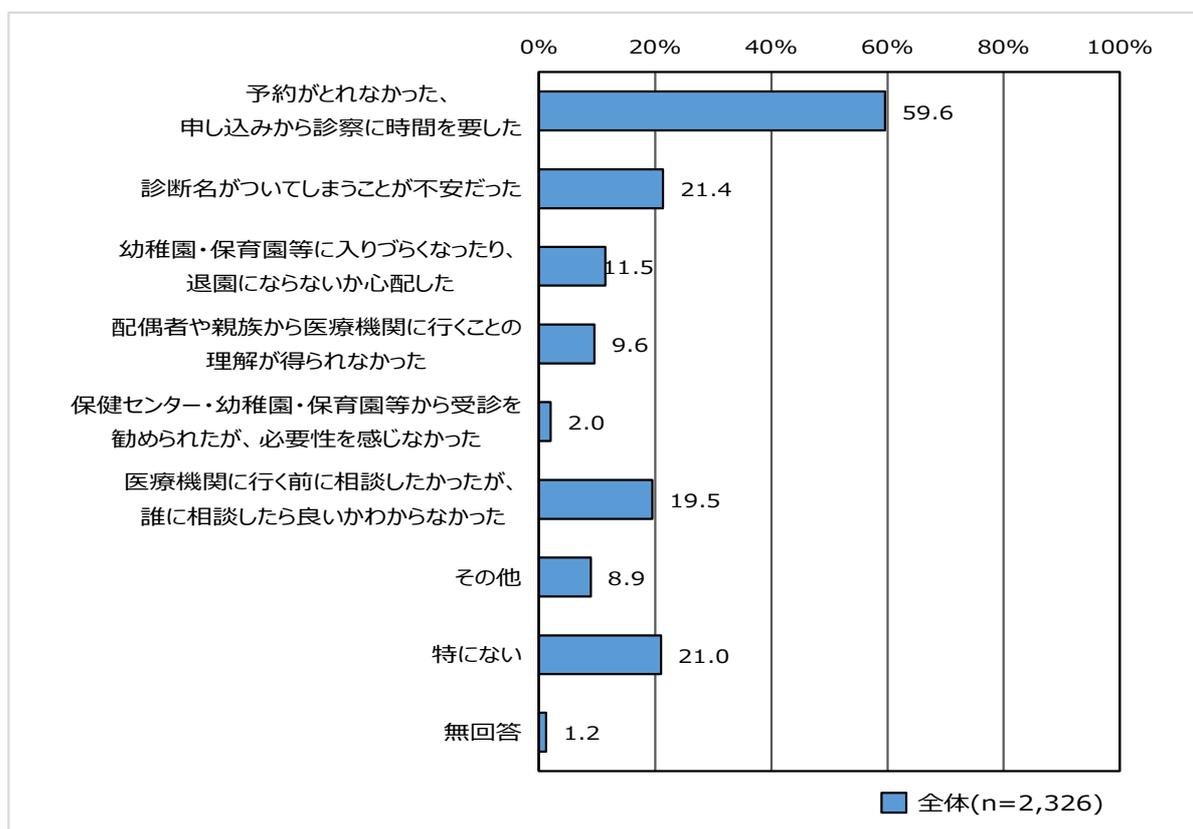
## (2) 発達に関する診断（就学児童等）

### ①医療機関に行ったタイミング

		合計	もっと早く受診すればよかった	ちょうどよかった	もう少し後に受診すればよかった	無回答
上段：実数		2326	712	1574	25	15
下段：%		100.0	30.6	67.7	1.1	0.6
気づいた年齢	出生時	152	17	129	2	4
		100.0	11.2	84.9	1.3	2.6
	1歳未満（出生時を除く）	243	65	176	1	1
		100.0	26.7	72.4	0.4	0.4
	1歳	425	95	321	5	4
		100.0	22.4	75.5	1.2	0.9
	2歳	568	125	432	8	3
		100.0	22.0	76.1	1.4	0.5
3歳（年少）	373	114	253	4	2	
	100.0	30.6	67.8	1.1	0.5	
4歳（年中）	141	69	71	1	0	
	100.0	48.9	50.4	0.7	0.0	
5歳（年長）	97	52	44	1	0	
	100.0	53.6	45.4	1.0	0.0	
6歳（小学生）以降	224	136	87	1	0	
	100.0	60.7	38.8	0.4	0.0	

●発達について気づいた年齢が高くなると、「もっと早く受診すればよかった」の割合が高くなる傾向が見られる。

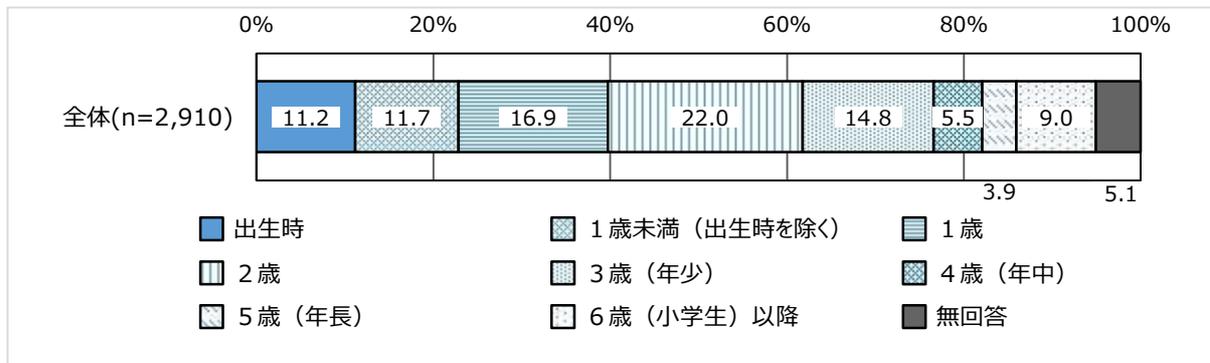
### ②医療機関に行く際に困ったこと・悩んだこと



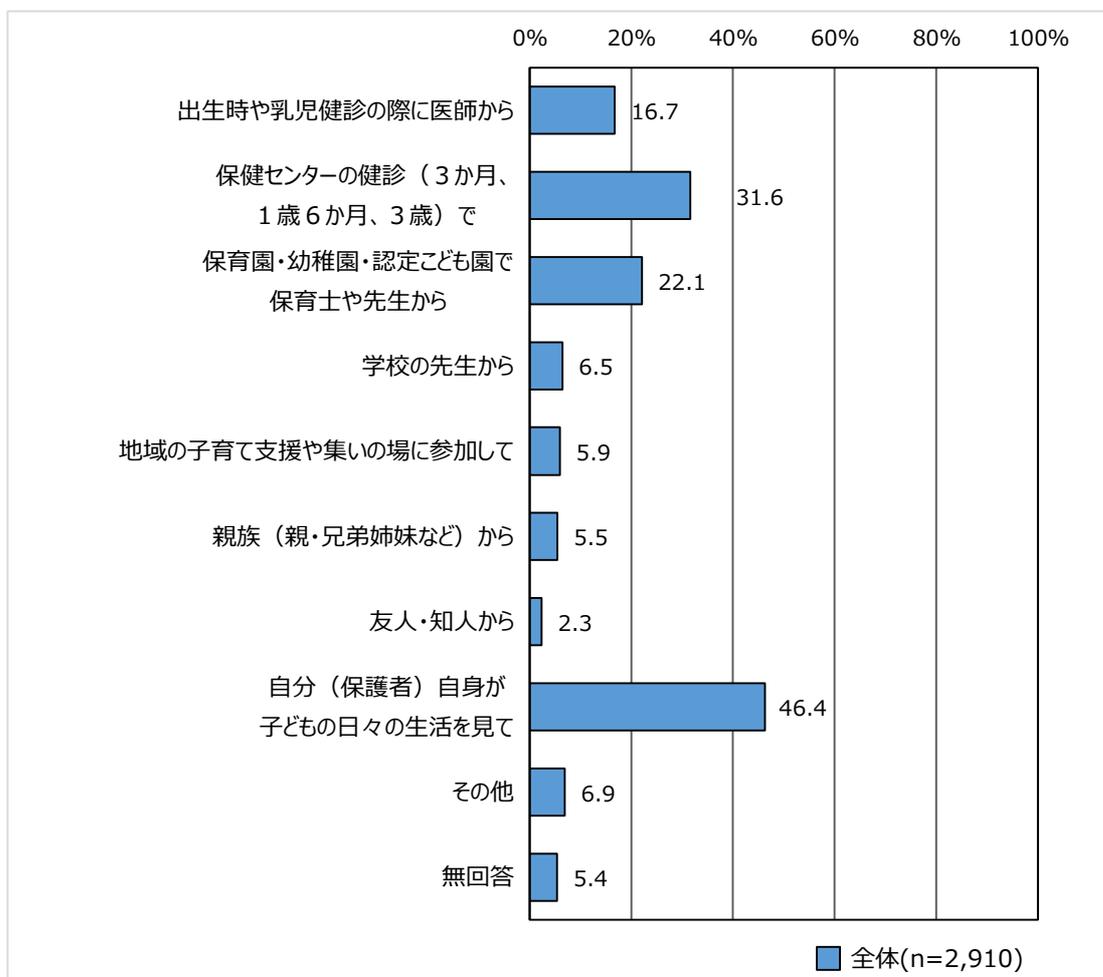
- 「予約が取れなかった、申し込みから診察に時間を要した」が 59.6%で最も高く、「診断名がついてしまうことが不安だった」が 21.4%、「誰に相談したらよいかわからなかった」が 19.5%となっている。

### (3) 発達に関する気づき（就学児童等）

#### ①気づいた年齢



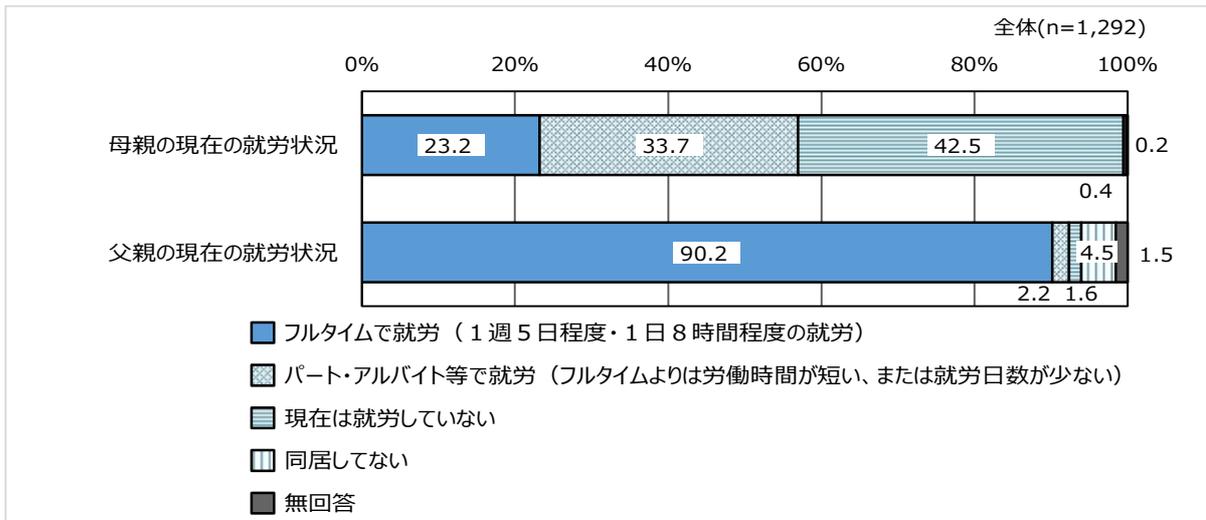
#### ②発達について気にするようになったきっかけ



- 発達について気にするようになったきっかけは「保護者自身が子どもの日々の生活を見て」の割合が最も高く、保護者が子どもの発達について気づいた年齢は「1歳まで」が 39.8%、「2歳」が 22.0%など早い段階から気づきがある。

#### (4) 保護者の就労と支援

##### ①保護者の就労状況（就学前児童）



●本アンケートの対象児の母親の就労率は56.9%で、本市が別途実施している「子育て家庭・意識・生活実態調査」における母親の就労率（72.6%）と比べて低い。

##### ②地域療育センター通園部についての要望（就学前児童）

上段：実数 下段：%	合計	施設の数が増える とよい	利用できる日数が増える とよい	1回あたりの時間が長くなる とよい	利用を希望した時に すぐに利用できる とよい	働きながら利用しやすくなる とよい	保育園・幼稚園に通いながら 地域療育センターに通園すること （1週間で1〜2日程度）	その他	要望は特 にない	無回答	
全体	1292 100.0	464 35.9	265 20.5	331 25.6	393 30.4	559 43.3	403 31.2	86 6.7	355 27.5	42 3.3	
就労状況	父母フルタイム	264 100.0	87 33.0	68 25.8	65 24.6	79 29.9	139 52.7	86 32.6	11 4.2	73 27.7	12 4.5
	フルタイムとパートタイム	404 100.0	146 36.1	85 21.0	91 22.5	113 28.0	205 50.7	131 32.4	20 5.0	110 27.2	11 2.7
	専業主婦・主夫	513 100.0	195 38.0	85 16.6	147 28.7	171 33.3	158 30.8	159 31.0	48 9.4	142 27.7	14 2.7
	ひとり親	61 100.0	16 26.2	17 27.9	17 27.9	15 24.6	30 49.2	13 21.3	5 8.2	18 29.5	4 6.6
	その他	29 100.0	12 41.4	5 17.2	6 20.7	10 34.5	15 51.7	8 27.6	1 3.4	7 24.1	0 0.0

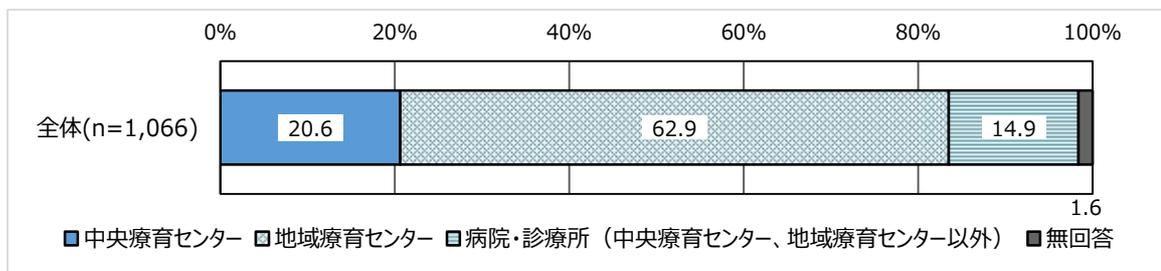
③就学前に利用したかったが全くできなかった事業（就学児童等）

上段：実数 下段：%	合計	療育センター等での診療	療育センター等の通園（週5日通園）	0～2歳児を対象とする療育センター等の親子教室（1～2週間で1日程度）	3～6歳を対象とする地域療育センター等の親子教室（1～2週間で1日程度）	療育センター等のハビリテーション	療育センター等の相談	障害児支援利用計画を作成する相談（相談支援事業所で実施）	保健センターの乳幼児発達相談	保育園や幼稚園等に専門家が訪問してお子さんの様子をうかがう事業	その他	特にない	無回答	
全体	2910 100.0	193 6.6	217 7.5	199 6.8	252 8.7	329 11.3	233 8.0	184 6.3	108 3.7	362 12.4	27 0.9	1525 52.4	355 12.2	
就労状況	父母フルタイム	486 100.0	37 7.6	51 10.5	37 7.6	62 12.8	71 14.6	48 9.9	46 9.5	22 4.5	76 15.6	5 1.0	226 46.5	51 10.5
	フルタイムとパートタイム	1137 100.0	62 5.5	75 6.6	67 5.9	90 7.9	117 10.3	73 6.4	63 5.5	32 2.8	140 12.3	13 1.1	607 53.4	148 13.0
	専業主婦・主夫	803 100.0	49 6.1	53 6.6	61 7.6	61 7.6	92 11.5	55 6.8	42 5.2	31 3.9	109 13.6	7 0.9	435 54.2	92 11.5
	ひとり親	288 100.0	32 11.1	26 9.0	23 8.0	23 8.0	30 10.4	38 13.2	20 6.9	15 5.2	26 9.0	1 0.3	147 51.0	35 12.2
	その他	91 100.0	5 5.5	7 7.7	4 4.4	8 8.8	12 13.2	13 14.3	6 6.6	5 5.5	7 7.7	0 0.0	56 61.5	7 7.7

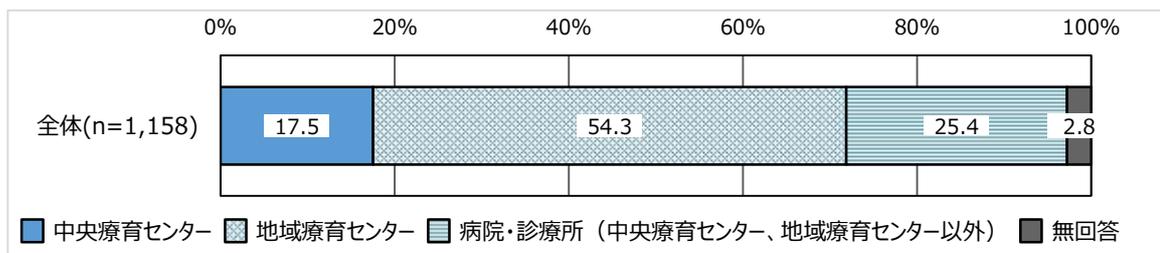
●共働き世帯や・ひとり親家庭の保護者は、専業主婦（夫）世帯と比べ、働きながら利用できる支援を希望する傾向がみられる。

(5) 医療提供体制

①受診もしくは診断した医療機関（就学前児童）



②現在、通院している医療機関（就学前児童）

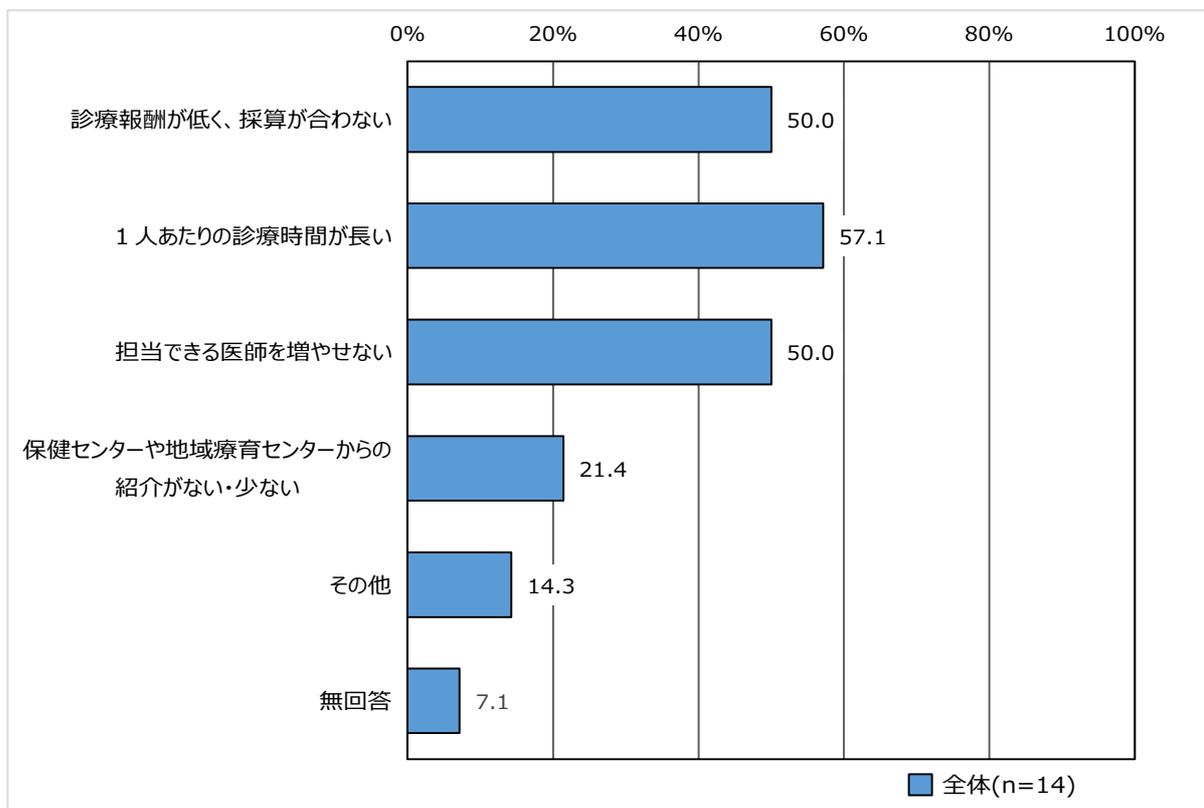


③現在の受診頻度（就学前児童）

上段：実数 下段：%		合計	年間 20回 以上	年間 で10 ～19 回	年間 で3 ～9 回	年間 で1 ～2 回	0回 (特に 受診し てい ない)	無回 答
全体		1292 100.0	81 6.3	78 6.0	271 21.0	728 56.3	122 9.4	12 0.9
診断 や手 帳	愛護手帳あり	567 100.0	54 9.5	45 7.9	141 24.9	269 47.4	52 9.2	6 1.1
	診断あり・愛護手帳なし	444 100.0	13 2.9	21 4.7	84 18.9	294 66.2	32 7.2	0 0.0
	身体障害者手帳のみ	23 100.0	5 21.7	5 21.7	6 26.1	5 21.7	1 4.3	1 4.3
	精神障害者保健福祉手帳のみ	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	診断なし・手帳なし	180 100.0	2 1.1	1 0.6	30 16.7	123 68.3	22 12.2	2 1.1

●市内の発達障害児等の診断の大半を療育センターが担っているが、受診頻度は「年に1～2回」の割合が66.2%となっており、肢体不自由児や中重度の知的障害児と比べて限定的である。

④医療機関において受診者を増やすことについての課題（医療機関）



●「1人あたりの診療時間が長い」(57.1%)、「診療報酬が低く、採算が合わない」(50.0%)、「担当できる医師を増やせない」(50.0%)の割合が特に高い。

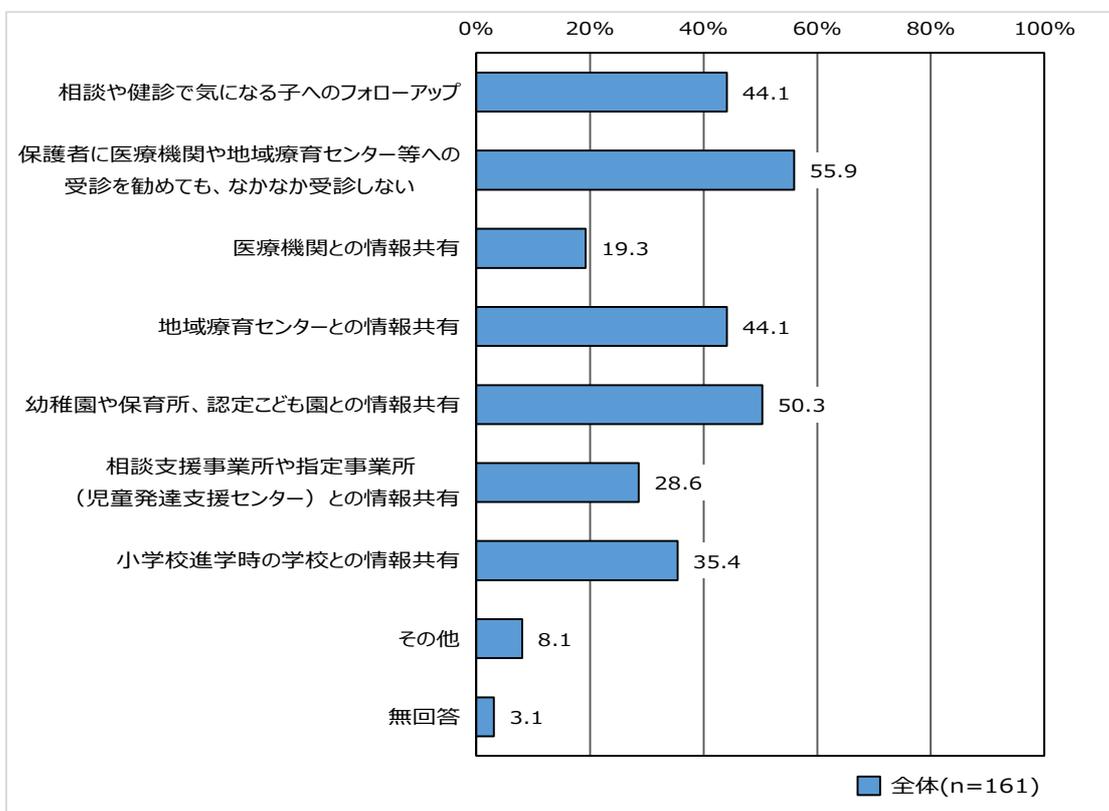
(6) 関係機関との連携

①最も相談した支援機関（就学児童等）

年齢	上段：実数	合計	保健センター	かかりつけ医	専門の医療機関	認定こども園 保育園、幼稚園	学校	療育センター等	指定事業所	相談支援事業所	その他	特にない	無回答
	下段：%												
年齢	出生～1歳	2902	482	565	202	181	1	220	5	4	57	768	417
		100.0	16.6	19.5	7.0	6.2	0.0	7.6	0.2	0.1	2.0	26.5	14.4
	2歳	2902	301	372	205	349	3	755	33	24	40	491	329
		100.0	10.4	12.8	7.1	12.0	0.1	26.0	1.1	0.8	1.4	16.9	11.3
	3歳（年少）	2902	80	196	211	622	9	1019	96	44	40	286	299
		100.0	2.8	6.8	7.3	21.4	0.3	35.1	3.3	1.5	1.4	9.9	10.3
	4歳（年中）	2902	29	158	259	701	9	961	159	69	46	247	264
		100.0	1.0	5.4	8.9	24.2	0.3	33.1	5.5	2.4	1.6	8.5	9.1
5歳（年長）	2902	15	134	305	697	16	930	202	90	52	194	267	
	100.0	0.5	4.6	10.5	24.0	0.6	32.0	7.0	3.1	1.8	6.7	9.2	
6歳（小1）	2902	4	163	496	11	904	303	320	142	53	216	290	
	100.0	0.1	5.6	17.1	0.4	31.2	10.4	11.0	4.9	1.8	7.4	10.0	
7歳（小2）	2602	3	141	468	7	806	227	289	119	51	181	310	
	100.0	0.1	5.4	18.0	0.3	31.0	8.7	11.1	4.6	2.0	7.0	11.9	
8歳以降（現在）	2222	1	136	436	4	579	156	294	181	56	112	267	
	100.0	0.0	6.1	19.6	0.2	26.1	7.0	13.2	8.1	2.5	5.0	12.0	

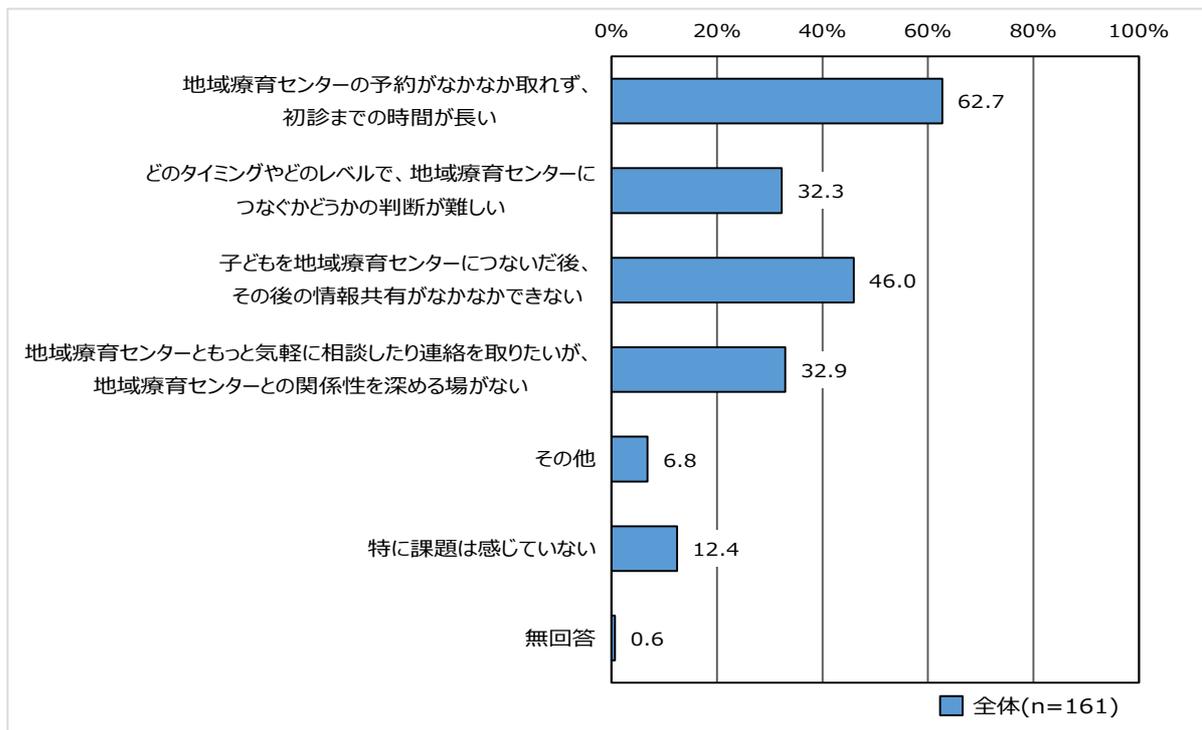
●最も相談した支援機関について、出生～1歳は「かかりつけ医」と「保健センター」、2～3歳は「療育センター等」、4～5歳は「療育センター等」と「指定事業所」、6歳（小1）以降は「学校」の割合が高く、子どもの年齢とともに変化している。

②切れ目なく継続的な支援をするにあたり感じている課題（保健センター）

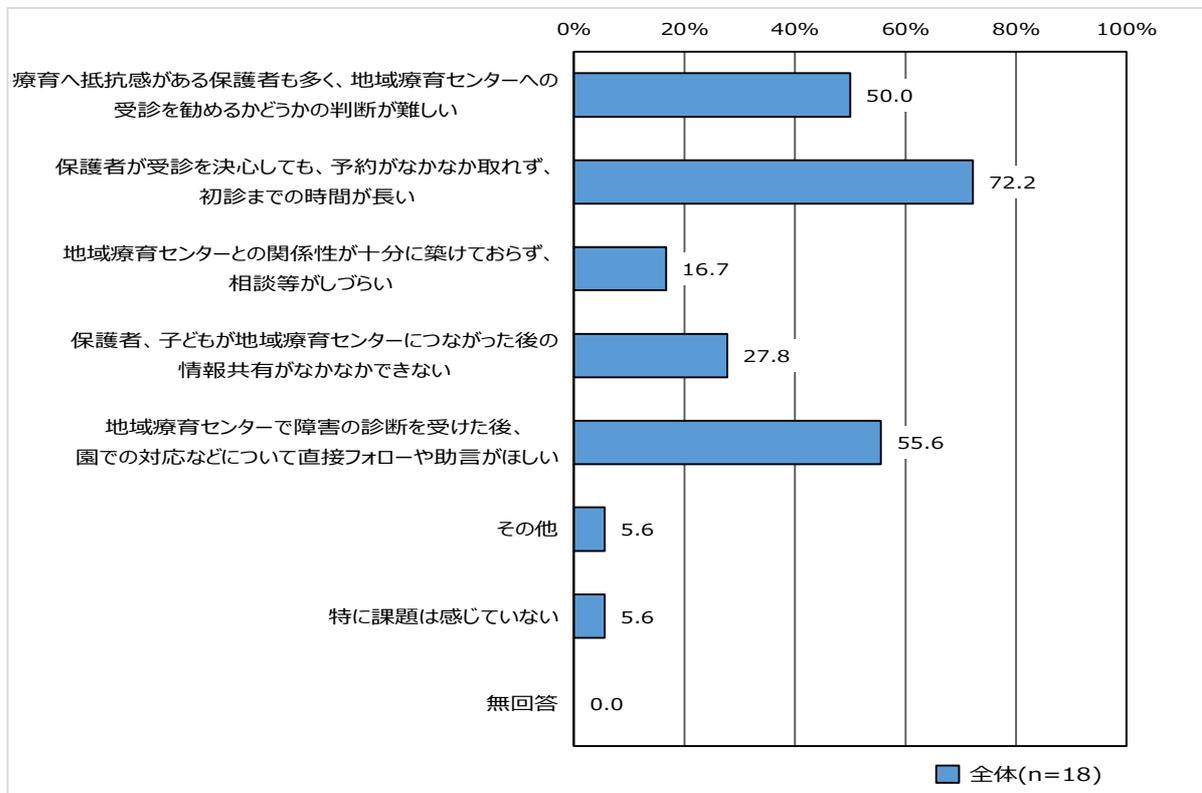


### ③地域療育センターとの連携の課題

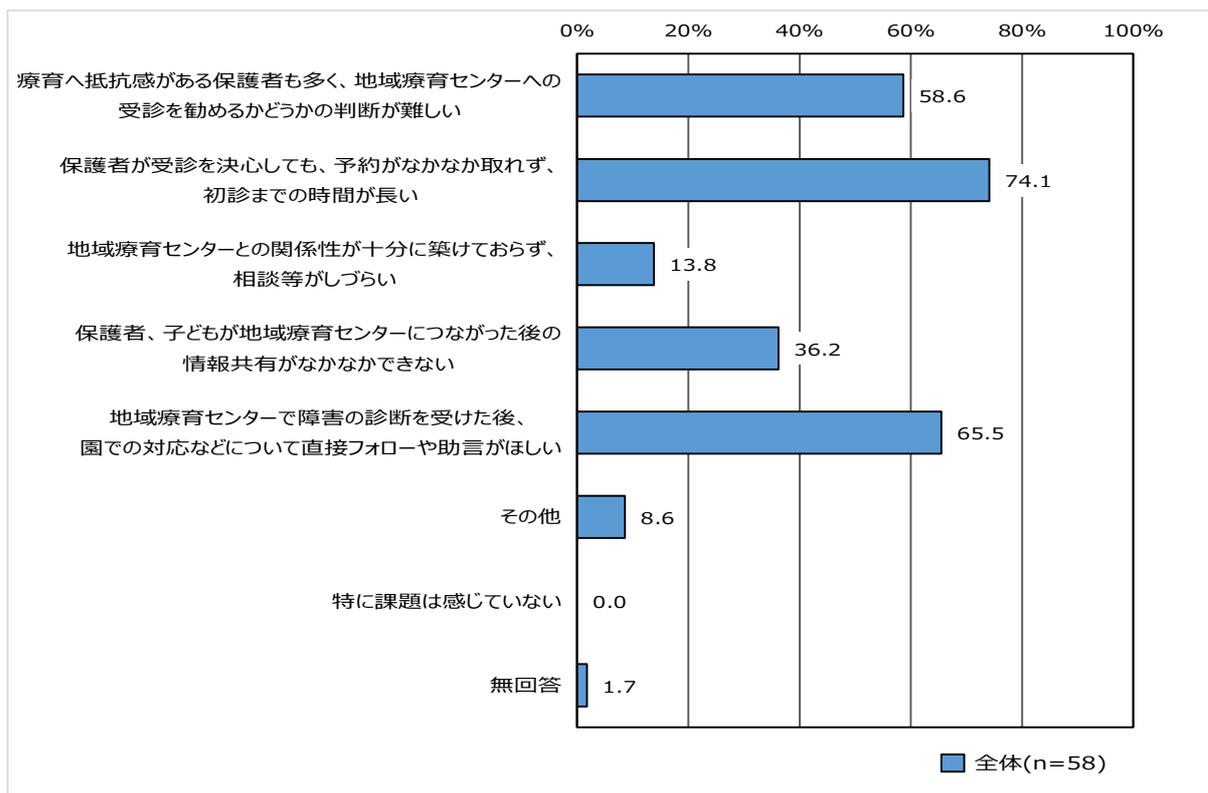
#### ア 保健センター



#### イ 市立幼稚園



## ウ 市立保育所



- 切れ目なく継続的な支援をするにあたり、保健センターは関係機関との情報共有と連携を課題にあげている。また、地域療育センターとの連携について、保健センターは「子どもを地域療育センターにつないだ後、その後の情報共有がなかなかできない」、「地域療育センターとの関係性を深める場がない」、市立保育所は「地域療育センターで診断後、園での対応などについて直接フォローや助言が欲しい」との回答が多く見られる。

### 【用語説明】

**障害児通所支援給付とは**⇒児童福祉法に定められたサービスで、発達に遅れなどのある子どもの支援として、児童発達支援（児童発達支援センターと児童発達支援事業所で利用が可能）、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の利用に対して障害児通所給付費が支給されます。

**地域療育センターとは**⇒乳幼児の発達の遅れなどを可能な限り早期に発見し、身近な地域で一貫した支援を行う地域療育体制の核となる専門機関として、診療所と児童発達支援センターを一体的に運営しています。子どもの発達に関する専門家を配置し、発達相談、診察・ハビリテーション、通園（通所支援）など子どもや家庭の状況に応じた専門的な支援をしています。